

ダイアジノン粒剤(5%)の効果的な処理方法

ダイアジノン粒剤(5%)は土壌処理後、表面付近で浅く混和する方法が、カブラヤガ幼虫防除に対してはより効果的です。

ただし、薬剤の使用に当たっては、ダイアジノン粒剤(5%)の登録に注意が必要です。

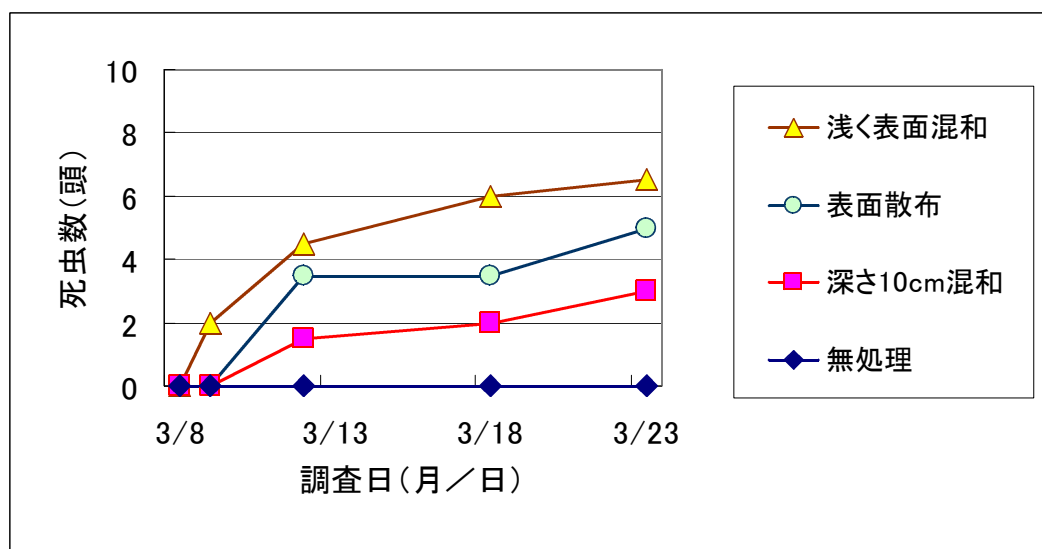


図1 カブラヤガ幼虫(左)と成虫(右)

ダイアジノン粒剤(5%)を処理するうえで、カブラヤガ幼虫に対し、より効果的な防除のための処理方法の検討を行いました。処理方法として、表面から10cmの深さまでの土壌混和、表面に処理し軽く土壌混和及び表面処理の

3つを比較したところ、土壌混和(深さ10cm)より表面散布又は表面混和の方が幼虫の死虫数が勝っていました。

これにより農薬の登録上様々な処理方法がある場合、ダイアジノン粒剤(5%)では効果的な処理方法として土壌表面散布又は表面混和がより効果的な防除ができることが分かりました。



*カブラヤガ幼虫は各区10頭放飼

図2 ダイアジノン粒剤(5%)の各処理方法でのカブラヤガ幼虫の死虫数

【背景】平成15年3月10日の改正農薬取締法の施行に伴い、使用できる農薬が著しく少ないマイナー作物等に対する特例措置として、経過措置が認められました。本県内団体から申請された薬剤のなかに、ダイアジノン粒剤(5%)のナズナ、ハハコグサ(通称:ゴギョウ)、ハコベ、コオニタビラコ(通称:ホトケノザ)でのネキリムシに対する使用事例があり、限られた期間の中で登録拡大を行うために、ネキリムシに対するより効果的な処理方法の検討を行うことで、必要な防除データを早く集める手法とします。